

長嶺信夫先生「自由への道」 (平成23年9月号掲載)を表彰!!



写真は今年5月、チベットの標高4,900mに位置するチョー・オユー・ベースキャンプからネパール方向を撮影したものです。

中国の圧政に苦しむチベット人がネパールを経由してインドに亡命するルートの一つだと、チベット人ガイドが耳元で囁いてくれました。亡命は中国の警備隊の活動がにぶる厳冬の1月ごろ決行され、チベット人しか分からないヒマラヤ越えのルートがいくつもあるそうです。ベースキャンプには中国の警備隊が駐屯し、近くの丘の上にはいくつも監視塔が見えました。ネパールやブータン国境に近いヒマラヤ地方では厳重な警備態勢がしかれ、パスポート提示を伴う検問がたびたびありました。中東や北アフリカの民主化要求デモなど政権に都合の悪い情報はチベット国内には入らず、去った6月25日から7月25日までは外国人のチベット自治区内への立入りが禁止されました。5月23日が中国とチベットの間で強制的に調印された17か条の条約締結60周年で、7月1日が中国共産党創設90周年にあたり、その期間における騒乱情報の海外流出を警戒してのことと思われました。

写真には写っていませんが、左側にチョー・オユー峰(8,201m)がそびえ、正面の美しい峰がチョー・ラブサン(6,666m)です。ヤクが荷物を運んでいました。チベットのことを思うと胸が痛みます。

長嶺胃腸科内科外科医院 長嶺 信夫



コメント

広報担当理事 當銘正彦

平成23年の会報誌の表紙を飾る写真のGrand Prixは、長嶺信夫先生の「自由への道」と決定しました。見事な一点透視図法で捉えられた画面、その遠く中心に聳えるチョー・ラブサンは、自ら霊峰の威厳を放っています。この素晴らしい写真の出来映えは、単に光学的な技術のみならず、ダライ・ラマを擁するチベットの人々への熱い連帯の発露でもあることが、長嶺先生の解説からもしみじみと伝わります。長嶺先生は、この写真の提

供と共に、昨年10月号には「チベット高地における血中酸素飽和度について」という学術的論説も投稿を頂きました。長嶺先生にはGrand Prixの表彰に重ね、何時もながらの会報誌作りへのご協力に、心より感謝申し上げます。

この会報表紙写真Grand Prix選考ですが、一昨年まではプロ写真家の新嘉喜祐司氏の指導の下に行っていたのですが、昨年8月にご逝去されました。従って今回の選考は広報委員会独自の作業となりましたが、氏のこれまでのご協力に感謝申し上げます、衷心よりご冥福をお祈り致します。